

on

た学生時代

左川町丙)

今年、戦後80年。多くの英霊たちに哀悼の誠がさげられた。僕にもまた戦争の犠牲となった忘れ得ぬ人がある。それが哲学者三木清である。

三木には幾多の論文があるが、学生時代僕はその中の「人間学のマルクスの形

本論」という書物はとても歯の立つものではなかった。そうしたさなか三木は、人間学という視点からマルクスの根底を流れる思想を剔抉し、それが僕の不安を解消してくれたのであった。

〈真実の秋の日照れば専

土佐弁とあんぱんと私

原田 絢子 45 主婦(埼玉県日高市)

私は「標準語」と呼ばれる言葉の地域出身です。幼稚園習得でも大変お上手で、7年も高知にいて全然上達しなかった自分が情けなくなりました。

高知に夫の転勤で住み始めて、最初は聞き取りもおぼつかない状態から「さんこん土佐日記」で単語を学習し、ご近所の方のお話を理解しようと努めました。わが家の小さな子どもたちが早く土地の子になれるように、何より自分自身が憧れの方言を話したくて、意識的に使うようにしました。

もっと上手になりたいと思いつつ、時だけが過ぎ、高知を去ることに。高知を離れるのと入れ替わりに「あんぱん」が始まり、土佐弁口を埋めるかのように、一話一話毎日食い入るように見ていました。子役

さんから俳優の皆さんは短期間習得でも大変お上手で、7年も高知にいて全然上達しなかった自分が情けなくなりました。

それでも私の自「流」の土佐弁もどきを嫌がったり、揶揄したりする方は皆無。「もう土佐弁やねえ」と言ってきた先輩方の優しいお顔が思い出されま。きつとイントネーション等に違和感があったのに、おおらかに受け入れてくださっていたことに改めて感謝します。

あんぱんの演者さんたちを見習って、次に高知に行くまではイントネーションを正確に勉強し直したいと思えます。故郷の言葉は素晴らしいです。どうぞ大切にしてください。

「あんぱん」よ、永遠なれ！

小笠原 隆政 70 学習塾経営(高知市棧橋通)

一日酔いのボートとした朝でも、今や日課となったことがある。それは朝8時にテレビの前に座り、NHKの朝ドラ「あんぱん」を見ることがだ。聞き取れない早口の主題歌を聴きながら、このドラマにすっかり心を奪われていた。

私は、これまで自分でも話していた土佐弁が苦手だった。若い頃交際していた女性に、その言葉遣いが少しきつて聞かなくて、「俺の前ではできた標準語を使ってくれ」と頼んだことがあった。当時、映画などで高知の人でもめつたに使われないような土佐弁が誇張され「土佐弁はきつい」というイメージを先行させていたからである。

しかし「あんぱん」の土佐弁は、まったく逆で俳優さんたちが大変丁寧に、そして自然に使いこなしている。その温かくユーモアに満ちた言葉のやりとり、これまで抱いていた土佐弁への偏見が、いかに浅はかだったかを思い知らされ、胸が熱くなった。

今思えば、あの時の自分の「見の狭さ」が、とても恥ずかしい。そしてこの「恥ずかしさ」こそが、私が心の底で故郷の言葉を強く愛していた証拠なのかもしれないと気づかされたのだ。

26日には、毎朝の楽しみが終わってしまう。きつと多くの高知の視聴者が私と同じように「あんぱん口ス」を、ひそかに感じているのではないだろうか。

この物語が何度も再放送されることを願いながら、今はただ心の中でじんわりと湧き上がるこの寂しさを大切にしたい。この喪失感こそが、このドラマが傑作であった証しだと思う。

自民党総裁選が告示され、慌ただしくなってきた政局。政治に望むことなども投稿ください。

高齢化に伴う子育て支援

被爆者から学ぶ平和の大切さ